

日本

家計調査報告 (2020年9月)

コロナ前の水準近くまで回復も所得環境悪化が重石

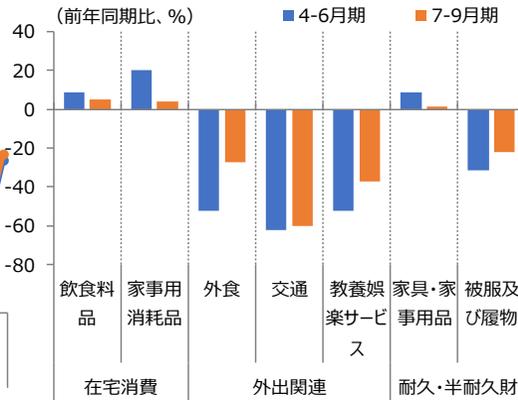
政策・経済センター  
綿谷謙吾  
03-6858-2717

1 実質消費支出 (季調値)



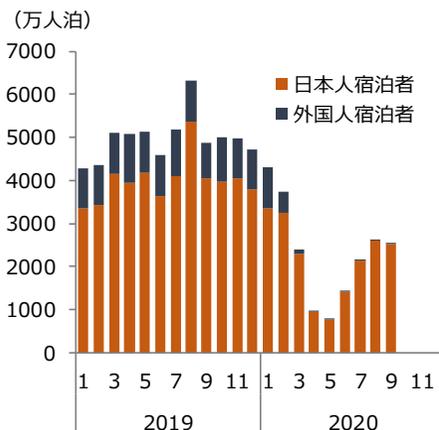
注：二人以上の世帯。2018年1月および2019年1月は変動調整値の伸びを用い、当社にて延伸。  
出所：総務省「家計調査報告」

2 品目別名目消費支出



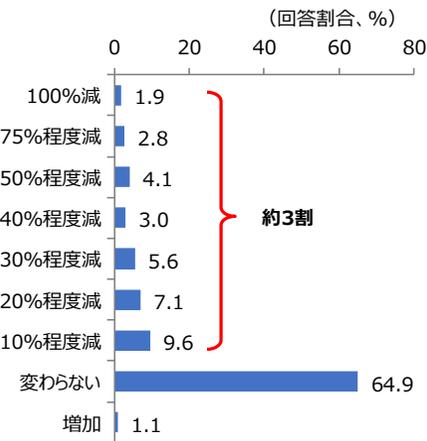
出所：総務省「家計調査報告」

3 宿泊者数



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

4 世帯収入の変化 (生活者調査)



注：感染拡大前（19年12月）からの世帯収入の変化。  
出所：三菱総合研究所「生活者市場予測システム (mif)」アンケート調査（20年10月16-19日に実施、回答者 5,000人）

評価ポイント

家計調査報告 (2020年9月) の結果

- 2020年9月の消費支出（二人以上の世帯）は、実質季調済の前月比で+3.8%と2カ月連続で増加（図表1）。消費は新型コロナ前（19年12月）と同程度の水準まで回復した。ただし、増税前の駆け込み需要があった19年9月との比較では、1割程度下回る（前年同月比▲10.2%）。
- 2020年7-9月の実質消費支出（二人以上の世帯）は、季調済前期比+3.6%。緊急事態宣言の影響で前期の消費が抑制された反動もあり増加した。
- 品目別の名目消費支出を四半期でみると、在宅消費は前年の駆け込みの影響がある中でも、前年同期比で増加しており、在宅消費需要は依然として強い（図表2）。一方、外出関連消費は前年同期比で減少継続も、外食や教養娯楽サービスの減少幅は縮小した。7・8月は東京都を中心に感染が拡大し、営業自粛要請や消費者自身の活動抑制もあったが、9月以降はGoToキャンペーン等の効果により消費活動は持ち直した。
- 同日発表の9月の家計消費状況調査では、家電関連消費は前年の駆け込みからの反動で減少も、旅行関係消費は国内のパック旅行費や宿泊料等の、減少幅が縮小した。7月下旬のGoToトラベルキャンペーンの開始以降、日本人宿泊者数は持ち直しており、10月の東京追加以降は政策効果がより大きく発現するとみられる（図表3）。

基調判断と今後の流れ

- 消費は、感染拡大が継続する中でも4・5月を底に持ち直し傾向にある。
- 先行きは、緩やかな回復を見込む。10月以降、GoToキャンペーンの効果がより顕現化するとみられるが、消費押し上げ効果は一時的・限定的なものにとどまるとみる。雇用環境は非正規雇用や飲食・宿泊等のサービス業を中心に悪化している。また、当社が10月に実施した生活者調査では、コロナ前と比較し所得が減少した世帯は3割程度となっており、所得の二極化が続いている（図表4）。雇用所得環境が悪化した世帯を中心に、消費姿勢が慎重化し、消費回復の重石になるとみる。
- 先行きのリスクは、感染拡大による防疫措置の再強化や外出行動の一段の抑制だ。国内では北海道等の寒冷地を中心に感染者や重症者数が増加しつつあり、冬場の感染拡大による消費の落ち込みに注意が必要だ。